

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2024年第50週)

(令和6年12月9日～令和6年12月15日)

令和6年12月19日

区分	疾病名	2024年					2023年 合計	2022年 合計
		47週	48週	49週	50週	合計		
定点報告	インフルエンザ	1.00 6	3.17 19	4.67 28	12.83 77	— 1,277	— 2,660	— 29
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	4.33 26	6.83 41	8.33 50	8.50 51	— 3,455	— 2,663	—
	RSウイルス感染症	1.25 5	2.25 9	1.50 6	0.50 2	— 305	— 425	— 190
	咽頭結膜熱	1.00 4	2.50 10	3.00 12	1.75 7	— 320	— 129	— 72
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.50 14	4.00 16	2.25 9	5.75 23	— 633	— 237	— 12
	感染性胃腸炎	0.75 3	0.75 3	0.50 2	0.50 2	— 603	— 988	— 626
	水痘	— 0	— 0	0.25 1	— 0	— 6	— 1	— 5
	手足口病	1.00 4	3.50 14	2.50 10	3.25 13	— 939	— 129	— 300
	伝染性紅斑	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 8	— 2
	突発性発しん	0.75 3	0.75 3	0.75 3	0.25 1	— 179	— 266	— 247
	ヘルパンギーナ	— 0	— 0	— 0	— 0	— 19	— 319	— 65
	流行性耳下腺炎	— 0	— 0	— 0	0.25 1	— 12	— 15	— 17
	急性出血性結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	流行性角結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 9	— 13	— 6
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	— 0	— 0	— 0	1.00 1	— 1	— 3	— 1
	クラミジア肺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	細菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	マイコプラズマ肺炎	— 0	1.00 1	1.00 1	— 0	— 14	— 1	— 1
	無菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	インフルエンザ入院	— 0	— 0	— 0	1.00 1	— 9	— 10	— 0
新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00 1	— 0	3.00 3	4.00 4	— 109	— 19	—	
全数報告	つつがむし病	0	0	1	0	1	0	3
	新型コロナウイルス感染症	—	—	—	—	—	4,241	15,612

【相双地域感染症発生動向調査週報 49W】カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

《定点把握疾患》

○流行：インフルエンザ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病

○小流行：RSウイルス感染症

【新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について】

県内全域で増加傾向が続いています。引き続き体調管理に留意するとともに、定期的な換気や基本的な感染対策をお願いします。

【インフルエンザについて】

増加傾向が続いており、注意報レベルとなりました。インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて喉の痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。

新型コロナウイルス感染症と同様、基本的な感染対策をお願いします。

【つつが虫病について】

今週は県内で1件報告がありました。つつが虫病は、リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺咬され感染します。屋外作業後には入浴・着替えをし、ツツガムシの刺咬を防ぎましょう。また、屋外作業後に、発熱、リンパ節の腫れ、発疹がみられた場合には、早急に医療機関を受診してください。

【マイコプラズマ肺炎について】

前週と比較して減少していますが、報告数の多い状況が続いています。マイコプラズマ肺炎は、細菌の感染によって起こる感染症で、小児や若年層を中心に流行します。感染経路は飛沫感染や接触感染で、感染してから2～3週間で発熱や全身の倦怠感、頭痛、痰を伴わない咳などの症状がみられます。軽症ですむ人が多いものの、一部の人は肺炎となり重症化することもあるため、長引く咳などの症状があるときは医療機関を受診しましょう。